

大きな木プロジェクト

香川県三豊市財田町

記念写真は いつも「タブノキ」の前で

樹齢700年と言われる、香川県のJR讃岐財田駅前のタブノキ。地元のシンボルとして親しまれているこの木を守り後世につながる活動を支援しています。

樹種：タブノキ

樹齢：約700年

所在地：香川県三豊市財田町財田上7282-2 JR財田駅前



「写真の木」として地元の人々に愛されてきたタブノキ

JR讃岐財田駅前のタブノキは、「写真の木」として地元の人々に愛されてきました。戦争中は出征のために、戦後は進学や就職などのために、地元を離れてきた人々にとって、この木は故郷のシンボルであり、戦後、この木を撮影したからです。

樹高9m、幹周4.6m。この地域の人々の想いが、この木とも指定されていて、保存木を紹介した冊子の表紙に掲載されます。

写真
の木に
ついて

伐採の危機を乗り越えて

写真の木として、長く愛されてきたタブノキでしたが、2011年7月、大枝の一本が落下。木がもろくなっていて、自分の重みに耐えられなくなったのです。枝の下に人がいたら、大変なことになっていました。そのため、安全の観点から、切り倒そうという声もありました。

しかし、「何とかしてこの木を守りたい」と地元の人々が立ちあがり、後世につながる活動を開始。瀬戸内オリーブ基金も、運営委員会で話し合い、直轄事業「大きな木プロジェクト」のひとつとして、地元の人々に協力することを決定しました。

専門家の協力を得てタブノキを調べてみると、この木を守るためには、風圧の影響を少なくすることが効果的であることがわかりました。枯れている枝や数年以内には枯れそうな枝を取り除き、枝葉の量を減らし、風通りを良く、かつ全体の重量を軽くする必要性がありました。

地元、JR四国、瀬戸内オリーブ基金が一体となって

タブノキを守るにあたり、タブノキの所有者であるJR四国の協力は欠かせません。三豊市役所の仲介で地元の人々とJR四国が交渉を重ね、JR四国も共に活動に参加することを前向きに検討していただき、当面の費用は瀬戸内オリーブ基金が支援することになりました。

タブノキを次世代につなぐ

第1回目の作業を2012年9月2日に実施。地元住民からなる「タブの木会」の人々、JR四国のみなさん、香川県庁や三豊市役所のみなさんなど、約30名が作業に参加しました。枝葉を取り除いた後、大枝に木製の支柱を取り付けるなど、今後も様々な作業が必要となります。支柱の材料は、市役所の方が不要になった電柱を調達してくれました。みなさんが様々な面で工夫を凝らして、タブノキを守ろうとしています。瀬戸内オリーブ基金はこの活動を、地元の方々と協力しながらこれからも支援していきます。

